

まさお
金子 正雄 さん
(植野町)



○プロフィール

平成26年から4年間、植野(台南)町会長を務める。佐野市まちづくり条例の会で会員として活動。現在、JWCさの(日本女性会議さの大会を成功させる会)会計。

キラリ★
話題の「ひと」

「日本女性会議2019さの」との出会いと意義

JWCさの(日本女性会議さの大会を成功させる会)で役員を務め、男性の立場から大会を盛り上げようと活動する金子さんは、ご自身と「日本女性会議2019さの」との出会いを次のように振り返ります。

平成26年に町会長に着任した金子さんは、町会に関するフォーラムやイベントなどに積極的に参加されました。そんな中、「佐野市まちづくり基本条例」作成に関する会員の公募があり応募、活動を始めました。

約3年に渡る活動が一段落すると、その時の仲間から、今度佐野市において「日本女性会議全国大会」を誘致するので、一緒に活動しないかと誘われ、熱心な金子さんは、自分の成長や町会運営の充実へ繋がると感じ、活動へ参加するようにになりました。

「日本女性会議」の歴史はかなり長く、佐野市での開催は通算で第36回目です。さらに、「日本女性会議」のルーツを根本から支え

ている貴重な学びの場が、埼玉県嵐山町にある「国立女性教育会館」です。そこは、さまざまな社会の課題などについて、現状のひずみや格差、社会状況などを双方方向に学習することを目的としています。

金子さんは「日本のジェンダー・ギャップ指数(男女平等の度合い)が先進国の中でもほぼ最下位、順位で示すと114位」であることに警鐘を鳴らします。

「国民がもっと関心をもち、女性の立場向上を図り、未来に希望がもてる男女平等社会の実現を願っています。女性の柔軟性に富んだ心と愛情豊かな知性」があれば社会のルールが変わります」と、男女平等社会へのビジョンを語ります。

「日本女性会議2019さの」が、男女平等社会実現への一歩となることを願っています。

(市民記者
佐藤久夫)



女性会議に向け、講座に参加する金子さん

市長からの
メッセージ



朝晩の冷え込み、冬の気配を感じるこの頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

先月、12日、13日と石川県の金沢市で開催されました「日本女性会議in金沢」に出席し、次期開催市のあいさつと本市のPRをしてまいりました。開会式には全国各地から男女共同参画の志を持つ、約2千人が出席され会場は熱気に包まれていました。さすがに加賀百万石の城下町金沢での日本女性会議は大規模で立派なものでしたが、来年の佐野大会では、本市独自の、佐野ならではの大会にしたいと感じました。残り1年、市民の皆さんの協力のもと「おもてなし」の心で全国からのお客様を迎える準備をしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

同じく13日には「田中正造の日 環境フェスタ」が文化会館で開催され、田中正造記念賞の市長賞に市内団体では初めて、佐野高校科学部が選ばれました。また、同じく佐野高校SGHクラブの生徒による活動発表が行われ、足尾鉍毒事件を発端として藤岡谷中村から佐呂間の地へ移住した人たちの過酷な開拓の歴史について、現地での視察研修の成果を発表してくれました。「田中正造の日」のイベントで、地元高校生が正造翁の思いを引き継ぎ、活躍する姿を見ることができ大変うれしく感じました。

さて、今月6日には、オリンピックメダリストの橋本聖子さんを講師に迎え、スポーツ講演会が文化会館大ホールで開催されます。日本女性会議や東京オリンピック・パラリンピックを控え、女性アスリートとして活躍し、その後も仕事と子育てを両立されてきた橋本さんの経験、体験を通じたお話が聞けるものと楽しみにしております。皆さんも是非、講演会にいらしてください。

岡部正英





佐野市国際クリケット場で初のイベント

9月22日(土)・23日(日)の2日間にわたり、佐野市国際クリケット場開設後、初となるイベント「サマーピクニック&クリケット in 佐野」が行われました。

9カ国8チーム対抗のクリケット試合や、子どもから大人まで楽しめる「クリケットにチャレンジ」のほか、ピクニック気分イベントを楽しめるように、「フェイスペイント・フォトコーナー」や、キッチンカー・フードテントでの各国の料理出店、また22日夜には屋外映画上映が行われました。来場者は会場の天然芝での心地よい空間で、思い思いの方法でイベントを楽しんでいました。



手軽に各国の料理を堪能

芝でくつろぎ、映画鑑賞

災害派遣医療チーム (LDMAT) の指定に向けて

9月20日(木)、佐野厚生総合病院長をはじめ、LDMAT 隊員となる予定の医師らが市を訪問しました。同病院は、栃木県内の活動に限定した災害派遣医療チーム (LDMAT) の指定病院を目指し、整備を進めています。LDMAT は県内を活動範囲とし、災害の発生直後(約48時間以内)に救出・救命部門と合同して機動的に活動するチームのことで

院長は「地域の災害医療へより一層の協力をしていきたい。佐野市民の命を守るため、一步一步レベルを上げていきたい」と、意気込みを語ります。

本市に「専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム」が誕生することで、災害医療の対応力向上が期待されます。いざという時に市民の命を守るため、市も一丸となって活動していきたいと思ひます。



講習を終えた隊員ら

佐野市 ばんてい
背が高く太いいたどりを、
ンマスカンポといった

いたどりは、5月から夏にかけて、野原や道端など日当りのよいところに生えます。茎は細長い棒のようにひよろひよろと伸びます。あまり目立たないが、白っぽくて小さな花を咲かせます。若い茎はすっぱいが、子どものころはこのすっぱい味に興味があつてよくかじったり、すすったりしたものです。このいたどりを見ると、地域の人たちは老いも若きもスカンポといっていました。いたどりという人は、ひとりもいませんでした。

「酢」のような味を、共通語で「ずい」とか「すっぱい」といいます。東北地方では、この酢の味をスカイとかスカイといひます。県内にもそのようなところが数地点ありますが、東北方言の影響なのか、昔から栃木方言として使っていたものなのかよくわかりません。

ところで、棒のように長く伸びた茎はスカイなので、最初はスカイポ、それが訛つてスカンポ(一)となりました。「スカンポの新芽の皮をむき取ると、シント(茎)がヤツケー(やわらかい)から、そこそこをかじってみな。スッペーから」

いたどりに2種類あつて、1メートル程度も成長するものがあります。これをンマスカンポといひます。それに比べてその半分程度しか伸びず、茎の細いものをスカンポといひて区別しています。

(市民記者 森下喜二)

今回の表紙 「陶芸家・人間国宝 田村耕一 生誕100年」

佐野に生きた、現代陶芸の穏やかな変革者であり、人間国宝の認定を受けた陶芸家・田村耕一の生誕100年の年です。この機会に田村耕一の作品に触れてみてはいかがでしょうか?